

専門分野

母性看護学

講義 4 単位・ 実習 2 単位

1. 母性看護学の考え方

母性看護学は、看護の対象である人間を母性の側面からとらえた学問である。母性の本質は生命の創造と育成であり、女性とその家族は社会の中に存在・生活し、成長・発達している。

近年、女性のライフサイクルにおいて人生の価値観や性のあり方が多様となり、親子・家族関係が複雑化している。その中で、女性や子どもの福祉・健康が脅かされる危険性が増してきている。また、生殖補助医療技術の進歩はめざましく、先端医療の恩恵を受ける女性が増加する中、生命に対する価値観も多様化し、生命倫理上の問題や身体への侵襲・精神的負担など、健康面に大きく影響している。このような背景の中で、次世代が健康に生まれ、より健康に育むための母性支援が必須である。母性看護学では母性の基盤となる概念を理解した上で、女性のライフスタイルや役割の多様性・医学の進歩・少子化・生活環境の変化などの広い視野に立ち、女性の一生を通じて健康の保持・増進、生活の向上を支援する看護の役割を学ぶ。さらに学生自らの母性・父性を育む態度を養う。

2. 目的

女性の一生を通じた性と生殖に関わる健康の促進に向け、看護が必要な状況や援助方法について学ぶ。

3. 目標

- 1) 母性の特性および母性を取り巻く社会の現状を理解し、母性看護の意義と役割がわかる。
- 2) ライフステージ各期の対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する。
- 3) 女性のライフサイクルにおける母性の健康と発達課題を理解し、必要な看護がわかる。
- 4) リプロダクティブヘルス・ライツの観点から、生命や健康にかかわる倫理について考える。
- 5) 周産期における母子の健康状態を理解し、看護実践能力を身につける。
- 6) 自己の母性・父性を認識し、自己概念を成長させる。

専門分野 母性看護学 授業計画

授業科目及び時間数		母性看護概論 1 単位 30 時間	
開講時期		2 年次 前期	
担当教員		松永 則子	実務 経験 有
科目のねらい・到達目標 〈ねらい〉母性の基盤となる概念を理解し、女性の一生を通じた健康の保持・増進を目指した看護を学ぶ 〈到達目標〉1. 母性看護の基盤となる概念を理解し、母性の捉え方がわかる 2. 母性看護の対象と社会の変遷・現状を理解する 3. 母性看護の課題と役割について理解する 4. 女性の各ライフステージの健康と看護を理解する 5. 女性の健康課題とリプロダクティブ・ヘルスケアを理解する 6. 母性看護における倫理について考える			
授業計画・内容・担当教員			
1 回目	1. 親になることと母性 2. 母子関係と家族の発達過程	講義	
2 回目	1. セクシュアリティの意義と発達 2. リプロダクティブヘルス／ライツの概念 3. 母性看護のあり方	講義	
3 回目	1. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1) 母性保健統計からみた動向	講義・演習	
4 回目	1. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1) 母性看護に関する主な法律	講義	
5 回目	1. 母性看護の対象理解 1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2) 女性・家族のライフサイクル	講義・演習	
6 回目 7 回目 8 回目 9 回目 10 回目 11 回目 12 回目 13 回目	1. 女性の各ライフステージの健康と看護 1) 思春期 2) 性成熟期 3) 更年期・老年期 2. 女性の健康課題とリプロダクティブ・ヘルスケア 1) 家族計画と受胎調節 2) 性感染症と予防 3) H I V に感染した女性に対する看護 4) 人工妊娠中絶と看護 5) 喫煙と女性の健康 6) 性暴力と看護 7) 虐待と子育て支援 8) 母子の国際化と看護	講義・演習	
14 回目	1. 母性看護における倫理 1) 母性看護と生命倫理 2) 女性の意思決定と倫理	講義・演習	
15 回目	筆記試験 まとめ		
評価方法	筆記試験 、課題・演習		
受講生に 対する メッセージ	女性の生涯を通じた健康を支えるために、看護者として・女性として・男性として、社会の課題・支援に関心をもって学んで下さい。また、演習内容は、各自の知識として定着させてください。		
テキスト	系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学 1 医学書院		
参考書	国民衛生の動向 2024／2025 厚生労働統計協会		

専門分野・母性看護学 授業計画

授業科目及び時間数	母性の正常と異常 1単位 15時間		
開講時期	2年次 前期		
担当教員	乙咩三里 安藤健 菊知華穂 松野孝幸	実務経験	有
<科目のねらい> 性と生殖に関する機能を理解し、妊産褥婦および新生児の健康状態について学ぶ。 <到達目標> 1. 妊娠・分娩・産褥・新生児における正常経過と異常を理解し、より良い健康状態を目指す母性看護に繋げていける。			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 出生前からの性と生殖に関する健康と権利 1) 遺伝相談 出生前診断 2) 不妊症と不育症の治療	講義 乙咩三里	
2回目	1. 妊娠 1) 妊娠期の身体的特性 妊娠の定義と成立 胎児の発育と生理 2) 妊婦と胎児の健康状態の診断	講義 安藤健	
3回目	1. 分娩 1) 分娩の要素 2) 分娩の経過 3) 産婦と胎児の健康状態の診断 2. 産褥経過と診断	講義 安藤健	
4回目	1. 新生児 1) 新生児の生理 2) 新生児の健康状態の診断 3) 新生児の異常 新生児仮死・分娩外傷	講義 菊知華穂	
5回目	1. 妊娠・分娩・産褥の異常 1) ハイリスク妊娠 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠の異常 流産・早産・過期妊娠・異所性妊娠・妊娠高血圧症候群	講義 松野孝幸	
6回目	1. 妊娠・分娩・産褥の異常 1) 分娩の異常 産道の異常・娩出力の異常・胎児および付属物の異常 胎児機能不全・分娩時異常出血・産科処置と手術の適応	講義 松野孝幸	
7回目	1. 妊娠・分娩・産褥の異常 1) 産褥の異常 子宮復古不全・産褥感染症・産褥血栓症・精神障害	講義 松野孝幸	
8回目	終了試験	菊知華穂	
評価方法	筆記試験 100%		
受講生に対するメッセージ	対象者の経過にそって系統的に、母性看護を学んでいきましょう。		
テキスト	系統看護学講座 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院		
参考書	病気がみえる⑩産科 メディックメディア		

専門分野 母性看護学 授業計画

授業科目及び時間数	いのちを育む看護Ⅰ 1単位 30時間		
開講時期	2年次 後期		
担当教員	松永則子	実務経験	有
科目のねらい・到達目標 ねらい 子どもを産み育てるための対象の理解とそれらを支える援助のあり方を学ぶ。 到達目標、 1. 正常な妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過に応じた看護を理解する 2. 妊娠期・分娩期・産褥期の経過における健康問題をもつ対象者の看護を理解する			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	妊娠期における看護 1) 妊娠経過に伴う母体の変化と胎児の発育 2) 正常経過のための妊婦健康診査と保健指導の意義	講義	
2回目	妊娠期における看護 1) 妊娠期の一般的留意点 2) 妊娠期の母体の変化に伴うトラブルに対する予防・援助	講義	
3回目	妊娠期における看護 1) 親になるための準備教育 2) 健康問題をもつ妊婦の看護	講義	
4回目	妊娠期における看護 1) 妊婦・胎児の身体的健康状態の診察法とアセスメント ・妊婦体験 ・レオポルド触診 計測診 児心音聴取 ノンストレステスト	演習	
5回目	分娩期における看護 1) 分娩経過と産婦の変化 2) 入院時の対応 3) 分娩各期の看護	講義	
6回目	分娩期における看護 1) 分娩各期の看護 2) 正常分娩経過から逸脱時の産婦の看護	講義	
7回目	産褥期における看護 1) 退行性変化、進行性変化、身体機能回復を促すためのアセスメント 2) 褥婦の日常生活とセルフケアへの看護 3) 親役割への支援 児への栄養（授乳）、清潔、健康管理 4) 家族関係構築への看護	講義	
8回目	産褥期における看護 1) 退院後の健康回復を促す看護 産後の生活調整・サポート・職場復帰 2) 育児不安への看護 3) 正常産褥経過からの逸脱時の看護 子宮復古不全、産褥期の発熱、乳房トラブル、メンタルヘルス問題	講義	
9. 10回目	授乳方法、子宮復古状態の観察の実際とアセスメント	講義・演習	
11回目	新生児期における看護 1) 新生児の生理 2) 新生児の観察とアセスメント(正常経過の判断と異常の回避) 呼吸、循環の適応、体温・生理的黄疸、体重、皮膚、反射	講義	

12 回目	新生児期における看護 1) 新生児の看護 出生直後・出生後から退院まで	講義
13. 14 回目	新生児の観察と沐浴の実際	演習 事前事後学習
15 回目	終了試験 まとめ	
評価方法	筆記試験 演習の課題・参加	
受講生に対するメッセージ	母性特有の専門用語が多く、理解していく事に困難さを感じるかと思います。しかし、学びを進めていく事により、妊娠・分娩・産褥・新生児の経過と看護が関連づいて理解できていきます。演習は、実習時に体験していく内容ですので、学習内容を関連づけて下さい。また、命と子どもを産み育てる看護の偉大さを感じ学んでください。	
テキスト	系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院	
参考書	病気がみえる⑩産科 メディックメディア	

専門分野・母性看護学 授業計画

授業科目及び時間数	いのちを育む看護Ⅱ 1単位 15時間		
開講時期	2年次 後期		
担当教員	松永 則子	実務 経験	有
<科目のねらい> いのちを育むための対象の理解とそれらを支える援助のあり方を学ぶ。 <到達目標> 1. 周産期における母子の健康状態を判断し、対象と家族に応じた看護を理解する。			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 看護の展開の考え方	講義	
2回目	1. 妊娠期における看護の展開	講義・演習	
3回目	1. 分娩期における看護の展開	講義・演習	
4回目	1. 産褥期における看護の展開 1)産褥と新生児	講義・演習	
5回目	1. 産褥期における看護の展開 1)産褥と新生児	講義・演習	
6回目	1. 産褥期における看護の展開 1)褥婦と新生児	講義・演習	
7回目	1. 周産期における母子の看護、まとめ	講義・演習	
8回目	終了試験		
評価方法	筆記試験及び演習		
受講生に 対する メッセージ	妊娠・分娩・産褥・新生児を一連の経過として捉えることを意識し、いのちを育む看護Ⅰの学びを活用して学んでください。		
テキスト	系統看護学講座 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院		
参考書	病気がみえる⑩ 産科 メディックメディア ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程 医師薬出版株式会社		